

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472602711	事業の開始年月日	平成17年2月1日
		指定年月日	平成29年2月1日
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホームあじさい		
所在地	(〒252-0203) 神奈川県相模原市中央区東淵野辺1-2-2-14		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年3月22日	評価結果 市町村受理日	令和5年8月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者を中心に考え、一人一人の体調や状況に合わせ、ご本人のペースで支援し、思いを感じ取れるよう努めています。
入居者様の誕生日には、個別支援として希望や意見を聞き、叶えられる様に支援してまます。
また、地域とのお付き合いを大事にしています。自治会、近隣小学校、保育園との交流を図り、中学校の体験学習、福祉高校の実習も行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年4月5日	評価機関 評価決定日	令和5年7月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、JR横浜線古淵駅から徒歩約15分の閑静な住宅地に立地している。道路を隔てて小道が続く雑木林があり、利用者の散歩コースとなっている。建物は鉄筋コンクリート造り2階建て、バリアフリー仕様でエレベーターや車いす対応の洗面台やトイレが設置されている。法人は大手電機メーカーが全面出資した株式会社で、グループホームや通所介護事業所など複数の介護事業所を運営している。</p> <p>【理念に基づいた利用者の意向と主体性を尊重した支援の実践】 職員は常に笑顔で声掛けをして、利用者との会話などで意向の把握とその実現に努めている。季節行事はもとより、ミニ運動会など利用者の要望を聞いて実施している。行事食は利用者の好みを聞き、「敬老会」には、松茸ご飯、「あじさい会」には、バイキング、毎月の「出前の日」には、お寿司等を提供している。昼食前の体操では、利用者が掛け声を出して、主体的に行っている。調理が好きな利用者は、エプロンや三角巾を付けて職員と一緒に調理、盛り付け、配膳、後片付けなど自主的に行っている。</p> <p>【全職員が参加し、作成する利用者寄り添った介護計画】 利用者の思いを汲み取り、寄り添うことを介護計画作成の基本姿勢としている。「24時間生活変化シート」(介護記録)に利用者の様子や意向、実施したサービス内容を記録し、毎月行うケアカンファレンスで居室担当者が、全職員からの意見をまとめて作成した「ケアカンファレンス準備シート」を基にモニタリングを行い、意見を出し合って「24時間アセスメントまとめシート」(介護計画)を作成している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホームあじさい
ユニット名	花びら通り一丁目

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホームあじさい
ユニット名	花びら通り二丁目

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念：一期一会 職員は、理念を常に意識し、理念を基に日々入居者様のケアを行い、健やかで快適に過ごせるよう実践に努めている。	管理者が内部昇格した際に、職員が理解しやすい、簡単な言葉を用いた事業所理念を作成した。事務所に理念を掲示してユニット会議などで、実施状況を確認している。理念以外に行動指針として「3つの約束」を定め、申し送り時などにも確認している。職員は、利用者に対して、今日1日、最高のおもてなしをする事を念頭におき、日々のケアに取り組んでいる。利用者寄り添い、意向を把握し、その実現に努めており、会話を通して、利用者の笑顔を引き出し、要望に応じている。季節行事は基より、事業所内で出来るミニ運動会やハロウィン仮装茶会等、利用者が楽しめるレクリエーションを実施している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊り、近隣の小学校・保育園との交流を図っている。また、地域の方の傾聴ボランティアが月に2.3回、他にも月1回のボランティアがカラオケや踊りを披露している。現在はコロナの為、中止しています。	嶽の内自治会に加入し、散歩の際には、近隣の方と挨拶を交わしている。地域の情報は、回覧版などを通して把握している。地域の行事や事業所の行事は、コロナ禍で中止しているが、地域の高等学校の福祉科の実習先として、5日間程、生徒を受け入れている。毎月、地域のパン屋による訪問販売がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の体験学習では毎年小学校の先生、小学校2年生とその父兄が来所し、グループホームについての質疑応答が行われている。また、中学校の体験学習や高校の実習施設となっており、利用者と折り紙、歌、体操等を体験している。現在高校の実習以外は中止しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、自治会長や民生委員及び地域包括支援センターの職員、ご利用者様本人並びにご家族様にも参加して頂き、現在のサービス利用状況の報告を行い、サービス向上のために意見を伺っている。現在書面で対応中。	運営推進会議は書面開催で2ヶ月毎に実施している。自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者がメンバーとなっている。メンバーに報告書を送付している。事業所の運営状況報告や行事の予定、地域の情報交換等を議題としている。現在、特段の意見や要望は上がっていない。	家族の参加がなく、報告書の送付もしていません。家族に、事業所の運営状況等の実態をよく理解してもらうためにも、更に意見や要望を広く収集するためにも、家族に運営推進会議への参加を促す事、報告書を送付する事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあればいつも市担当者に相談しており良好な関係を保っている。	相模原市福祉基盤課が窓口で、運営推進会議の報告書を郵送したり、電話などで相談することがある。介護保険要介護認定の更新手続き代行等でも連絡をしている。生活保護費を受給している利用者があり、2ヶ月に1回程度、生活支援課とは電話のやり取りをしている。相模原市グループホーム連絡会に加入し、他事業所の管理者と情報交換している。市から感染症や防災関連などの研修の案内があるが、業務の都合で参加が叶っていない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上常に施錠を行っている。身体拘束の研修は年2回実施している。日頃から月1回ケースカンファレンスで話し合いをしている。現在は書面で対応中。	身体拘束をしない旨、契約書や重要事項説明書に明記している。「身体拘束適正化検討委員会」は、管理者、各ユニットリーダーをメンバーとして3ヶ月毎に開催している。法人で研修を実施し、事業所でもユニット会議などでマニュアルに基づき行っている。スピーチロックの研修には「不適切ケア」の資料を用いている。市のSOSネットワークに2名が登録し、登録番号のシールを履物や衣類に貼っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者やリーダーが日々、ご利用者様の表情や体調に注意を払い、変わりなく穏やかに過ごされていることを確認している。研修を年2回実施している。身体拘束委員会を定期的開催しスタッフに情報共有している。現在は書面で対応中。	「虐待防止委員会」は「身体拘束等適正化検討委員会」と併せて開催している。研修は高齢者虐待防止法や法人のマニュアルを使い、法人で研修を実施し、事業所でもユニット会議などで行っている。虐待が疑われるような行為は無いが、万が一、発見された場合は、全職員が通報の義務がある事を理解している	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	生活保護のご入居者様の後見人手続き等、市の担当者と支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に事前に説明を行い、締結まで書類をお渡しし確認頂き、不明な点についてはご納得頂けるまで十分な説明を行った上で契約を交わしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画書作成時に入居者や家族に意見・要望・苦情を吸い上げる様心掛けている。また、普段よりご家族様とは何でも言い合える環境と信頼関係を築ける様に努めている。	家族には、電話やLINEでの通常の連絡の他、希望者にタブレットのLINE動画で、利用者の様子を伝えている。入居前のアセスメントでも、利用者・家族の意向を把握している。家族から、入居している母に文字を忘れないようにしてほしいとの要望があり、般若信教の写経を取り入れる他、家族のことを忘れないように脳トレを取り入れたり、継続的に家族の写真を見せたりして対応している。携帯電話を持たせてほしいとの要望を受け、携帯電話を所持し、曜日を決めて家族と話を出来るように支援している。毎月送付している請求書に「あじさいNEWS」を同封し、利用者の状況などを知らせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見交換が行われている。また日頃から職員同士話しやすい環境作りを心掛けている。年に2回は個別面談を行って意見や提案を聞いている。	申し送り時や毎月のユニット会議で職員の意見や要望を聞いている。他にも管理者は常に職員と対話し、意見や要望などを聞いている。法人主催の「職場懇談会」という無記名のアンケート調査が年2回あり、意見や要望を募っている。結果を法人がまとめ、事業所にフィードバックされ、ユニット会議で発表している。職員からは給与面や人員不足、建物の老朽化の修理などの要望が上がっている。人手不足の対応として派遣職員を採用している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与に関しては、管理者（施設長）、部長が査定を行っている。その他労務管理も常に管理者（施設長）、部長が把握し、日頃から管理者は部長に職員の様子を伝え公平を期している。	出退勤はICカードで管理、残業は事前申請で管理している。健康診断を夜勤者は年2回、その他の職員は年1回実施している。ストレスチェックはセルフチェックを実施し、結果を法人の担当者に送っている。ハラスメントについても、資料の回覧をして研修をしている。人事考課面接は、年2回「目標管理シート」を使用し、管理者が実施している。資格取得の支援として、法人が推薦する該当の研修を受講する場合やグループホームに係わる資格研修は受講料の全額補助をしている。介護福祉士、介護支援専門員の資格保有者には、手当が支給される。非常勤職員にも同様の対応をしている。職員の悩み相談窓口を法人内に設けている。リビング内にある和室を休憩室として使用している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自年間目標を設定し、個別に面談を行っている。外部研修は参加する機会が少なかったが、職場内で研修する場を定期的に設けている。社外研修にも参加している。	キャリアパスを作成し、職員は次のステップに向けた目標を設定して働くことができる。法人の研修やユニット会議で研修を実施している。職員は、研修後にテストも兼ねた研修報告書を提出している。非常勤職員も研修や会議に参加している。新人研修は、新卒者については法人が実施し、中途採用の職員に対しては、事業所がチューター制度により、マンツーマンでOJT教育をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相模原市内で行われている勉強会や、グループホーム管理者が集まり、様々な課題に対する意見交換を行っている。これらの事がグループホーム全体の向上に繋がるとの思いから、積極的に奨励、応援している。今年から再開予定		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接・施設見学・事前面接等を通じて、ご本人様の意見や要望等を聞く機会を設けている。更に入居後は施設に早く馴染める様、職員からの声掛けやご本人の希望に耳を傾ける事に気を配り安心して生活して頂ける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接・施設見学・事前面接等を通じてご家族の要望等を聞く機会を設けている。ご家族来訪時には普段の様子をお伝えしながら話しやすい雰囲気作りに努め家族との情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接等の相談時において、ご本人様及びご家族様の話を聞いた上で適切なサービスの選択が出来る様にし、必要に応じ他のサービスについての情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様を中心に考え、ご本人様の思いを感じ取れるよう努めている。ご入居者様から話し掛けられた時は他の仕事していても手を止め耳を傾けて話を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時は入居者様とご家族様がゆっくりと話ができる様に、ご入居者様の居室やフロアで一緒に過ごせる様にしている。また、職員が普段の様子を説明し情報共有に努めている。現在面会制限中。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣にお住まいのご家族様が頻繁に面会に来られている。面会やご家族との外出は自由にして頂いている。また昔からのご友人も来訪される事もある。現在面会制限中。	家族は、病院に同行する際や、不足の日用品や備品などを持って訪れた際に面談を行う事が多い。その際には、玄関先で面会している。オンラインで面会する利用者もいる。電話の取次ぎや手紙の投函等の支援をしている。家族対応で墓参りに行く利用者もいる。趣味の習字や塗り絵、日記の継続等を支援している。正月に利用者に食べさせるためにおせちを届ける家族もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士が会話をしやすい様に食席についても配慮している。レクリエーションや行事等を通じて、ユニット間でも交流が図れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者に対しても、ご入居者様またはご家族様から相談等があった場合は、必要な情報提供や相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様の意向や希望をケアプランに載せ、それに則って生活支援を行っている。困難な場合はご家族様に相談し一緒に検討している。	日々の支援や介護計画作成時のアセスメントなどから思いや意向を把握している。発語が困難な利用者には、家族から得た情報の他、表情やしぐさ等から本人本位に検討している。職員は、入浴時や散歩時などの1対1の場面を大切にして、意向の把握に努めている。利用者から郷土料理の秋田のきりたんぽが食べたいとの要望があり、職員が調理し提供して、皆で楽しんだ。把握した内容は「24時間生活変化シート」などに記入し、職員間で共有して介護計画にも反映させている。さらに利用者・家族の「苦情対応記録」を作成して、職員で共有し改善に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様やご家族様に昔の情報をお聞きし、ケアプランに組み込み、少しでも馴染みのある生活が送れる様心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様の日々の様子をケース記録、24時間シート及び業務日報に記入し職員同士で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング実施	担当者がご入居者様毎に状態や変化をまとめ、毎月のカンファレンス時にて職員間で話し合いをして実践し評価している。現在個別及び書面で実施。4月より再開。	入居前アセスメントを実施し、初回介護計画を作成し、1～2ヶ月様子を見て、モニタリングをして2回目の介護計画を作成している。見直しは短期目標は6ヶ月、長期目標は1年で、変化のある場合にはその都度見直している。医師や看護師の意見は往診時の記録から把握し、利用者・家族の意向も取り入れている。職員は「24時間生活変化シート」（介護記録）に利用者の様子や要望、サービス実施内容を記録している。居室担当者が全職員の意見を聞いて作成した「ケアカンファレンス準備シート」を基にモニタリングをし、意見を出し合って「24時間アセスメントまとめシート」（介護計画）を作成している。作成した介護計画を最終的に介護支援専門員が確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様の日々の様子や変化等、ケース記録・業務日報・連絡ノートに記入し、職員同士で共有し、必要に応じその場で話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護ベッド・車椅子は、施設内の用具を無償で使用して貰っている。要望に応じて他業者からの購入のお手伝いもしている。また、通院のサポートもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等への参加を支援している。現在はコロナ感染対応の為、中止しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅訪問診療を月2回受診している。他にかかりつけ医がいる場合は、医師同士の連携が図れる様に配慮し、適切な医療が受けられるように援助を行っている。	月2回、協力医（内科）が全利用者を往診している。必要に応じて精神科の往診も受けられる。受診記録として診療レポートが協力医から送られてくる。家族対応で外部の整形外科や大学病院を定期的に受診している利用者がある。歯科医が毎週来所して、口腔ケアと治療をしている。眼科医の往診を受けている利用者もいる。毎週、訪問看護師が来所し、健康管理とアドバイスをしている。看護師とは24時間連絡が取れる体制になっており、緊急時には医師への取次ぎもしてくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師の訪問にて全員の健康チェックを受けると共に、日常の関わりの中で気付いた事等の相談をし、アドバイスを貰ったり必要によってかかりつけ医と連携を取って貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には介護サマリーを提供し、医師からご家族様への説明時には立ち会う等、病院側との情報交換にも努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の説明を行っている。ターミナルケアについては医師・ご家族様・職員と話し合いの場を設けている。	入居時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を説明している。医師が終末期と判断した場合には、医師・家族・管理者で話し合い、看取り介護計画を作成して、看取りを実施している。研修は看取りが発生した場合に、マニュアルに基づき管理者が行っている。振り返りは担当者、ユニットリーダー、管理者で行い、改善点等を次回に活かすように努めている。今年度1名の看取りを実施した。	契約時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を家族に説明していますが、同意を頂いておりません。事業所は、内容について説明し、家族が同意した事を確認できるように同意書を作成し、手交する事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの使用法等の救急対応についての研修を行っている。事故発生時の救急対応についてもマニュアルにて全職員が理解している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。消防署の方も参加して頂き、助言を受けている。また、災害時には近隣の職員への連絡が取れるような体制を取っている。	事業所は、1回は夜間の火災、1回は地震による火災を想定し、年2回の防災訓練を実施している。2年に1回、消防署が立ち会っている。BCP作成については法人が計画している。家具などの転倒防止は図られている。必要な個人情報の書類などの緊急時に持ち出せるようにまとめて保管している。食品、水、日用品等は、3日分を備蓄している。カセットコンロやボンベ、簡易トイレなども用意している。ラジオ、水、スナック菓子、ポケットコートなどが入った職員用のリュックサックを用意し、ヘルメットも全員分準備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人話し掛ける時は敬語や丁寧な言葉で話す様になっている。認知症であるご入居者様には安心して過ごして頂けるような声掛けをしている。	言葉遣いについては特に気を配り、注意する言葉や禁句の言葉の一覧表を作り、ユニット会議などでチェックしている。利用者を「さん」付けで呼び、敬う気持ちを大切にしている。トイレ誘導の際は、小声で周囲に分からないように配慮している。個人情報を含む書類は事務所の鍵の掛かるキャビネットに保管している。パソコンは管理者用と職員様があり、それぞれパスワードで管理し、更にパスワードを定期的に変更している。排泄チェック表などは裏返して置くなど、個人名が見えないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望や意見等を聞いて叶えられる様支援している。希望が言えない方でも選択肢を与えて自己決定し易い様働きかけている。現在外出中止、施設内で出来るよう工夫してる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理な声掛けはせず、一人一人の体調や状況に合わせてご本人のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人が、その人らしいオシャレや身なりになれるよう気を配り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人好みの味を把握し美味しく食べて頂ける様調理に工夫している。季節や行事の物を取り入れ目で楽しんで頂いたり、嫌いな物でも食べれる工夫、個別で買い物購入をしている。	配食業者から献立付きの食品や食材が届く。事業所では、朝夕は冷凍食品を温めて、昼は食材を調理して提供している。ご飯やみそ汁は毎食職員が作っている。毎週木曜の朝食は、職員が買ってきたパンを提供している。調理や食事準備、介護をする短時間パート職員を採用している。出前で寿司などを頼むこともある。行事食として、「敬老会」には松茸ご飯、「あじさい会」にはバイキング形式の料理を提供している。正月には、スーパーでおせちを購入して、手作りした煮物などを添えて提供している。クリスマスにはケーキを購入している。誕生会にはスポンジケーキを購入し、利用者は職員と一緒に生クリームなどを飾り付けて楽しんでいる。利用者の体調や嚥下状態に配慮して、きざみやとろみ食などの食形態食にも対応している。料理の好きな利用者は職員と同様にエプロン、三角巾を付けて、自主的に調理などを手伝っており、戦力として活躍している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食時にチェックしている。水分量もその都度量っている。ご入居者様に合った量を提供し、苦手な物は工夫して調理し、バランスを取って		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを行っている。ご入居者様の状態を見て歯間ブラシやスポンジ、吸引歯ブラシを使用している。舌の汚れや歯茎の腫れ等も異変がないかチェックし、異変があれば訪問歯科に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、尿意や便意のない方は声掛けをして誘導している。二人対応でトイレでの排泄も対応している。パットの大きさ、量にも気を付けている。	布パンツでひとりでトイレに行くことができ、自立している利用者が2名で、他の方はリハビリパンツとパッドを使用したり、紙おむつを使用している。基本的には、排泄チェック表から排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。夜間は睡眠を優先するために紙おむつを使用したり、夜用のパッドを使用している利用者がいる。夜間の転倒防止のためにポータブルトイレを使用する利用者もいる。トイレは各フロアに3ヶ所あり、内1ヶ所が車いす対応である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便の記録を記入している。一人ひとりの排便パターンを考慮し、コントロールしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週二回の入浴を提供している。ご本人様の様子を見て午前、午後等分ける様にしている。立位や歩行が難しい方でも二人介助にて楽しんで頂いている。また、自立で入る方は好きな時に入ってもらっている。	入浴は週2回を基本とし、午前中を中心に実施している。要望に応じて回数や時間は柔軟に対応している。同性介助も行っている。入浴を好まない利用者には、時間を変えたり、担当者を替えて対応している。無理強いせず足浴や清拭で対応することもある。ゆず湯や菖蒲湯の他、入浴剤を使用したり、CDで好きな音楽を聴いて、入浴を楽しんでいる。浴室暖房機その他、脱衣所はエアコンを設置してヒートショック対策をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の意思を尊重し、眠たいと訴えがあった時や、フロアで傾眠している時は居室へ誘導し休んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	クリニックとの連携をしっかりと取り、内服薬等で分からない事があった際は確認をし、間違えなく服薬出来るように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯干し、洗濯たたみ等、ご入居者様が出来る事は行って頂いている。また、趣味の散歩や、塗り絵、音楽等を楽しんで頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や個別支援にてご入居者様の希望を聞き、計画策定・実施している。毎年ご入居者様の希望を参考にしながら行事計画を策定している。 現在、外出行事は中止中。玄関先での日光浴や、散歩は実施中。	天気の良い日には、事業所の道路を挟んですぐ前にある小道が続く雑木林や小学校、公園などへ車いすの利用者も一緒に散歩に出ている。玄関先で花を愛でながら外気浴を楽しむ利用者もいる。コロナ禍で外出を禁止していたため、鳥居や賽銭箱、お守りを作り、事業所内で初詣気分を味わった。1階と2階の利用者の交流があり、互いのユニットの利用者が階段を昇り降りして往来することが、生活リハビリにもなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は所持しない事になっており、ご本人様・ご家族様にもお伝えしている。希望がある際はその都度相談し臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に沿ってご家族様と連携を取って対応している。携帯電話、ライン電話でやり取りしている利用者様もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日フロア内の清掃を行っている。空調等も温度計・湿度計を見ながら快適に過ごせる様になっている。また、季節感が出るように壁紙作りやカレンダー作りをしている。	リビングには大きなホワイトボードが掛けられて、食事メニュー、予定、誕生日の利用者への対応などが記載されている。利用者と職員で作った手作りのカレンダーなどが飾られて、季節感がある。加湿器、空気清浄機、オゾン発生器が設置され、毎日2回、窓を開け換気している。毎日2回、手すりやトイレの消毒を行っている。年2回、業者が入り、ワックスがけやエアコンの清掃が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う・気の合わないご入居者様もいるので、職員で話し合っ、皆様が快適に過ごせるようにフロアの席は決めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様が安心して生活出来る様にご本人様・ご家族様と相談した上で居室のレイアウト変更を行っている。	エアコン、クローゼット、照明器具、温湿度計が備え付けられている。ベッドは、持ち込みやレンタルなど様々で、防災加工のカーテンは持ち込みとなっている。利用者は使い慣れた椅子や机、テレビ、加湿器、家族の写真、自身が作成した作品などを持ち込んでいる。清掃は、一部の利用者と職員が行っている。季節の衣替えは、家族が短時間で行う他、居室担当者が行っている。居室の入口には、大きな文字の表札が掛けられ、分かりやすくなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等での案内や表示は大きく分かりやすい文字で掲示している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

相模原ケアハートガーデン
グループホームあじさい

作成日

令和5年7月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を開催していない。 書面で配布しているが、ご家族に配布していないので施設の運営状況がわからない。	運営推進会議が開催できる。 ご家族も参加され意見交換ができる。 施設の運営が理解できる。	運営推進会議議事録に家族の意見、要望記入欄を作成する。	6ヶ月
2	33	契約時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を説明しているが、同意を頂いていない。	家族が同意した事を確認できるように同意書を作成し、手交する。	同意書の作成・手交の実施。	3ヶ月
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。